

TPS 関連情報（現状と今後の影響）

1 TPS 資格者の現状

- 現在、エルサルバドル人TPS資格者は19.6万人存在しています。
- TPS資格者は過去最大で27万人いましたが、米国人との婚姻による永住権の取得、TPS外の合法的なステータス取得、国外退去等の理由により、上記数値まで減少しています。
- TPS資格者19.6万人の88-95%が正規雇用されており、約3.9万人が建設業、約2.2万人がサービス・レストラン業、約1.1万人が造園業に従事していると言われています。
- 2019年9月以降にTPS資格者が合法的なステータスを得る方法として、以下の3つが挙げられています。
 - ①21歳以上の米国籍の子ども（注：米国は国籍に関し属地主義）を持つ資格者による永住権の家族申請行
 - ②米国人との婚姻による永住権の習得
 - ③米国議会による立法措置。
- 上記①に関しては、約3万人が対象となっていると言われています。また、③に関しては、エルサルバドル政府は今後も米議会に対し続けていくことを明示的に言及しています。

2 今後の影響に関する見解

- TPSが当国に与える影響について、以下の可能性が報道等により、言及されています。
- 家族送金額に大きな影響を与える可能性は短期的には低いと言われています。しかし、何らかの措置が講じられず、現資格者が全て帰還した場合には、単純計算でも6億3千万ドル、対GDP比2.3%の損失となることが予想されています。
- 治安悪化に関しては、
 - ①TPS対象者の約88-95%が正規雇用者
 - ②犯罪歴のある者にはTPSは付与されていない
 - ③現TPS資格者の半数以上が英語を問題無く話せるとされているため、帰還したとたんに犯罪に手を染める可能性は低く、短期間で急激な治安の悪化につながる可能性は低いと言われています
- 但し、犯罪集団が帰還者を標的とした「ゆすり」や「脅迫」を行う可能性もあるため、犯罪集団の活動が活発化する可能性もあるとされています。
- 国内にこれといった産業がない現状のままでは、今後の帰還者の雇用需要は

満たせず、経済も悪化することから、帰還者が犯罪に手を染めるケースが発生することも考えられるため、中・長期的には治安の悪化につながる可能性があることにも言及されています。